

科目名		担当教員名	学期
公会計原則 Public Sector Accounting		品田 和之 白山 真一	後期
目的	公会計の理論と種々の公的主体での会計関連実務を解説し、現状の制度的課題や公会計情報の活用について理解することを目的とします。		
概要	公会計について、国、自治体、その他の公的機関、国際基準の考え方や実務を説明します。更に、広義での公会計を構成すると考えられるテーマとして非常に重要な「非財務情報」による評価、「公監査」などについても時間をとり、公的主体の経営インフラとしての公会計の全体像を解説します。		
到達目標	以下の到達目標を想定しています。 1. 企業会計と公会計の共通点と違いを理解する 2. 受講生それぞれが関係する様々な公的主体における公会計情報を活用するための基礎的な知識を得る 3. 公的主体の経営インフラとしての広義での公会計のあり方についての提言を行うことができる		
成績評価の基準と方法	出席および授業での発言（40%程度）、レポート（60%程度）により評点をつけ、100点満点で素点を計算する。 この素点が60点以上を合格者とし、相対評価比率に合致するように、素点順にA、B、C、Dの評価を行う。不合格者は素点ベースで60点未満の者とする。		
履修条件	特にありません。 但し、各自の研究課題・関心・専門性をもとに、授業時に発言を求めることがあります。		
授業計画			
第1週	公会計の基礎（1）		
第2週	公会計の基礎（2）		
第3週	公会計の基礎（3） 予算		
第4週	地方公会計（1） 概要		
第5週	地方公会計（2） 財政健全化法、地方公会計の活用		
第6週	国際公会計		
第7週	独立行政法人の会計		
第8週	公的機関の業績評価		
第9週	地方公会計（3） ケーススタディー、公的機関の内部統制		
第10週	地方公営企業の会計		
第11週	国の公会計		
第12週	公益法人の会計		
第13週	公的機関の監査		
第14週	ディスカッション①日本の財政について他		

第 15 週	ディスカッション②
テキスト 参考書等	講義時にレジユメ及び参考資料を配布します。
その他 特記事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原則として以上のスケジュールで講義を進めますが、公会計制度は現在改革が進んでおり、その最先端の内容を講義に反映させるため、適宜内容を変更することがあります。また、同様に講義の順番が変わることもあります。 2. 講義形式を中心としますが、受講生の意見発表などの積極的参加によるゼミナール形式も検討いたします。 3. 最近発生した国・地方の行財政制度改革、公会計・公監査制度改革、関連ニュースについての視座を講義時に解説しますが、受講生からも発表をお願いすることがあります。 4. 予習は特に必要ありません。復習については、適宜（1回の講義につき2時間程度）実施してください。